

## 平成26年度 遺髪塚慰霊式



平成26年8月13日、行願寺（大月市）において、都留高同窓会が中心となり、大月空襲で犠牲になられた旧制都留中学と都留高等女学校の生徒・職員等の慰霊法要が行われました。

本年度は、遺族や同窓生、在校生代表等50余名が出席しました。



平井茂同窓会会長：「今から69年前の昭和20年に県立都留中学校に入学し、激動の時代を過ごしてきました。その年の8月13日、米軍艦載機に投下された爆弾により、都留高女、都留中学の生徒教職員等34名の尊い命が亡くなり、母校114年の歴史の中で、忘れられない悲しくも暗い記録として刻み込まれました。この無念の想いを、無にすることなく、今後も平和な日本の確立と真の豊かさの実現のために力を尽くすことを誓います。」と御霊の冥福を祈られました。



志村憲一校長：「戦後69年を迎え年々戦争体験者も少なくなっているなか、こうして毎年行われるこの法要は、この記憶を長く留めておく為にも意味深いものであり、今の生徒たちが何不自由なく学校に通えるのも、この尊い犠牲の上になりたっていることを、私たちは忘れてはなりません。

亡き友の遺髪塚に手を合わす 生かされし人も少なくなり戦争の語り部が年々減るなか、戦争を知らない3つ目の世代が生まれている平成という世の中で、この次の世代が遺髪塚に眠る無念と平和への思いを後世に伝えてほしいと想います。」と願われました。



遺髪塚は、都留高校生徒有志により清掃が行われ、大変きれいになっておりました。当日は花が手向けられ、遺族、同窓生等関係者が次々に参拝されました。



天野行同窓会副会長の指揮で都留高等女学校校歌を斉唱しました。



都留高敷地内に建立されている五輪塔に参拝する在校生代表